

10 付属語 助詞 (1)

名前

年 組 番

100点

1 「格助詞」各文の格助詞に——線を引きなさい。

4 点 × 5

- ① 弟と電車で家に帰る。
- ② 友達から手紙が届く。
- ③ この馬は他の馬より速く走る。
- ④ パンやジャムを買って袋ふくろに入れる。
- ⑤ 朝八時に起きて学校へ行く。

2 「格助詞の働き」——線の格助詞の働きを、あとから選ちなさい。

4 点 × 5

- ① 彼は努力して医者となった。
- ② 君は学校へバスで来ますか。
- ③ テニスをしに公園へ行く。
- ④ ワインはぶどうから作る。
- ⑤ 大雨で通行止めになる。

ア 原因 イ 手段 ウ 原料
エ 結果 オ 目的

3 「格助詞」の「——線」の「の」の働きを、あとから選ちなさい。

3 点 × 3

- ① 庭のすみの小さな木。
- ② 熱いのをください。
- ③ 雪の降る朝だった。

ア 部分の主語 イ 体言の資格
ウ 連体修飾語

4 「接続助詞」各文の接続助詞に——線を引きなさい。

4 点 × 4

- ① 赤くておいしそうなりんご。
- ② 寒ければ、戸を閉めてください。
- ③ テレビを見ながら食事をした。
- ④ 時間があるから少し話そう。

5 「接続助詞の働き」——線の接続助詞の働きを、あとから選ちなさい。

4 点 × 5

- ① 暗くなつたのに、まだ暑い。
- ② 忙しいので、また来て下さい。
- ③ 今始めれば、すぐに終わるよ。
- ④ 歩きつつ親しく話した。
- ⑤ とんだりはねたりする。

ア 同時 イ 並立 ウ 理由
エ 仮定 オ 逆接

6 「接続助詞」と「——線」との働きを、あとから選ちなさい。

3 点 × 3

- ① 誰に聞かれようと構わない。
- ② 彼が来ると、にぎやかになる。
- ③ 秋になると、風が冷たくなる。

ア 順接 イ 条件 ウ 逆接

7 「格助詞・接続助詞」次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(2) 完答 3 点 × 2

ある夜、ぼくは空を飛ぶ夢を見た。確かに、鳥のように、自由じゆうに大空を飛んでいた。目覚めた後も、高揚こうようした気分が続いた。朝食のとき、夢のことを話すと、小学生の妹いもうとに笑われた。

(1) ——線 A ～ D 「に」の中から、格助詞を一つ選ちなさい。

(2) この文章中にある接続助詞を二つ抜き出なさい。

10 付属語 助詞 (1)

名前

年組番

100点

解答

- 1** ① 弟と電車で家に帰る。
 ② 友達から手紙が届く。
 ③ この馬は他の馬より速く走る。
 ④ パンやジャムを買って袋に入れる。
 ⑤ 朝八時に起きて学校へ行く。
- 2** ① エ ② イ ③ オ
 ④ ウ ⑤ ア
- 3** ① ウ ② イ ③ ア
- 4** ① 赤くておいしそうなりンゴ。
 ② 寒ければ、戸を閉めてください。
 ③ テレビを見ながら食事をした。
 ④ 時間があるから少し話そう。
- 5** ① オ ② ウ ③ エ
 ④ ア ⑤ イ
- 6** ① ウ ② イ ③ ア
- 7** (1) D (2) て (で) ・ と

解説

- 1** 格助詞は、主に名詞の下に付いて、後に続く部分との関係を示す。
 ① 「と」は相手、「で」は手段、「に」は場所。
 ② 「から」は相手、「が」は主語。
 ③ 「の」は連体修飾語、「より」は比較。
 ④ 「や」は並立、「を」と「に」は対象。
 ⑤ 「に」は時間、「へ」は場所。
- 2** ② 「バスを使って」という手段。
 ③ 「するために」という目的。
 ⑤ 「大雨のために」という原因。
- 3** ① 「庭の」は「すみ」にかかる連体修飾語。
 ② 「の」は「もの」と置き換えられる。
 ③ 「雪の」は「雪が」と言い換えられる。
- 4** 接続助詞は、主に活用する語に付いて、いろいろな関係で前後をつなぐ。
 ① 「て」は並立。
 ② 「ば」は仮定、「て」は補助の関係。
 ③ 「ながら」は同時。
 ④ 「から」は理由。
 ⑤ ① 「くけれど」という逆接。
 ③ 「もしくすれば」という仮定。
 ④ 「くながら」という同時。
- 6** ① 予想と異なる内容が後に続く。
 ② 「来た場合は」という意味。
 ③ 予想どおりの内容が後に続く。
- 7** (1) Dは相手を表す格助詞。AとCは形容動詞「確かだ」「自由だ」の活用語尾、Bは助動詞「ようだ」の一部。
 (2) 「飛んでいた」＝補助の関係(「て」が濁った形)、「話すと」＝条件を表す。